

2025\_0613「花束のような紫陽花の並木（写真）」日々の理科 3963号  
お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

文京区内には何か所かの「紫陽花の名所」があります。私の職場のお茶の水女子大学構内もその一つと言って良いでしょう。今の時期はその紫陽花が満開になっています。特に附属高等学校から附属中学校に向かうイチョウ並木の根元の紫陽花が一番見事で、まるで花束のような咲きぶりでした。

これだけたくさん咲いているのに、紫や青く見えるのは花びら（花弁）ではなく、がく片の一部が変化したものです。このような咲き方は「装飾花」と呼ばれています。実際の「花の本体」は中心の小さな部分ですが、これだけ咲いていても、ほとんど種子を作りません。紫陽花はヒトを楽しませるために生きているわけではないでしょうが、まるでヒトの目を楽しませるために咲いているとしか思えない光景でした。

(2025年6月中旬／お茶の水女子大学構内)

